

「赤十字リポジトリ」を活用した産婦人科業績集の事例

天野いづみ 山梨 佐織¹⁾ 市川 義一²⁾

静岡赤十字病院 図書室

1) 同 医事課

2) 同 産婦人科

要旨: 2012年6月に日本赤十字社が構築した「赤十字リポジトリ」を利用し、産婦人科医師の論文、学会発表、講演記録を集積した。機関リポジトリのメリットは、個々の業績を集約できる他、インターネットを利用し世界に公開できるため、病院の広報ツールとしても利用できる。しかし、公開する論文は、医療人だけでなく、一般の多くの人々の目に触れる機会も増すため、著作権や患者プライバシーに十分配慮する必要がある。

Key words: 機関リポジトリ, 業績集, 医学情報, オープンアクセス, 著作権, 患者プライバシー, JAIRO Cloud

I. はじめに

日本赤十字社では、国立情報学研究所(National Institute of Informatics : NII) が無償提供する JAIRO Cloud (NII共用リポジトリサービス) を利用し、2012年6月より「赤十字リポジトリ」(図1) を公開した¹⁾。

今回、静岡赤十字病院産婦人科医師の学会発表、論文、講演等の業績リストを「赤十字リポジトリ」上に集積し、院外からインターネットにて利用可能な業績集を構築したのでその事例を報告する。

II. 機関リポジトリの説明

「機関リポジトリ (Institutional Repository)」とは、大学や病院などの学術機関が、所属する研究者の論文などを電子化し、インターネットを通して全世界へ無料公開するシステムの事であり、「リポジトリ」という言葉には、「貯蔵庫」「集積庫」などの意味がある。

機関リポジトリは、近年の雑誌の価格高騰による対抗手段として誕生した。価格高騰により各図書館での購読数が減り、それを補うために出版社は価格をあげるといふ「シリアルズ・クライシス(雑誌の危機)」現象が発生した。雑誌の購読数が減り続ければ、必要な学術資料が不足し、質の低下が生じることが懸念される。そこで、研究者自身が自分の所属する大学のサーバーを利用し、論文を掲載、公開するオープンアクセス運動が機関リポジトリの始まりである²⁾。

「赤十字リポジトリ」の構築は、日本赤十字社医学会総会の学会抄録集である「日赤医学」の公開インターフェースとしての利用が第一の目的であるが、その他にも日本赤十字社の職員にとってもメリットは多い。以下に著者・演者である職員のメリットを紹介する³⁾。



図1 「赤十字リポジトリ」
<https://redcross.repo.nii.ac.jp/>

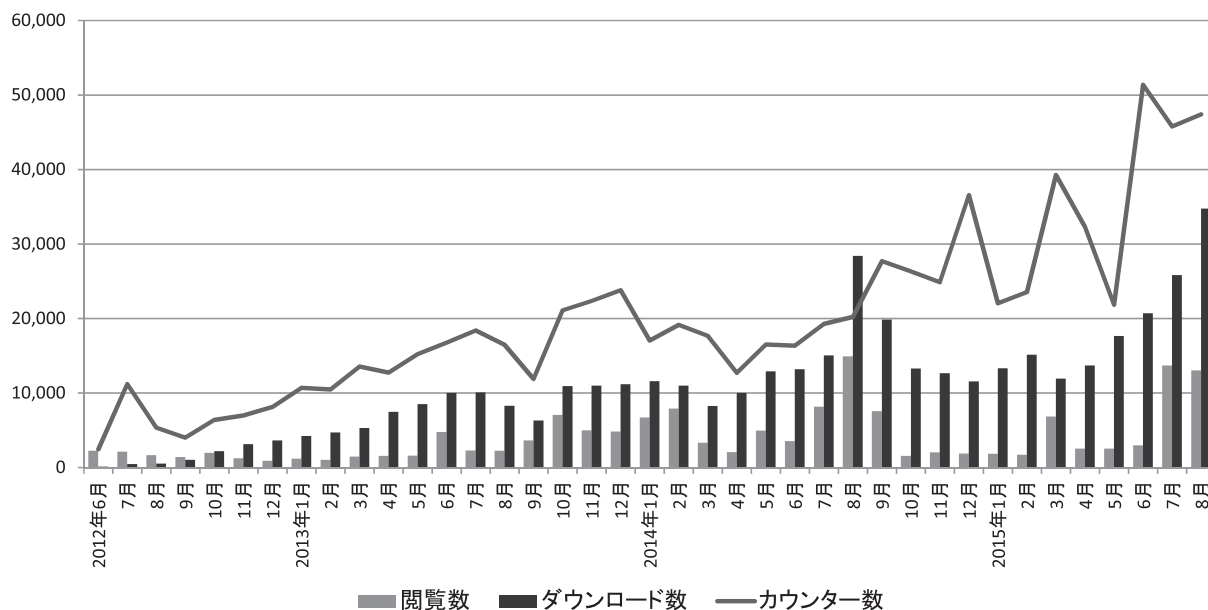


図2 「赤十字リポジトリ」利用状況

1. 灰色文献と呼ばれる紀要，研究誌等は寄贈先が限られているが，機関リポジトリに公開することで利用が増える⁴⁾。紀要，研究誌をホームページ上にPDF (Portable Document Format) ファイルにて搭載している施設もあるが，機関リポジトリでは，メタデータ (論題，著者，抄録，キーワードなど) を作成するため，二次資料からの検索が可能であり，研究成果が利用されやすい。

2. 著者が商業誌に投稿した論文を，出版社の許諾を得て機関リポジトリでオープンアクセスとして公開することで，外国雑誌の価格高騰にて雑誌を契約できない研究者，学生等にとって利便性が生じる。

3. 職員の研究成果一覧を作成し，業績集として活用できる。平成20年3月に厚生労働省からの都道府県知事宛てに提出された「がん診療連携拠点病院等の整備について」⁵⁾ では，「地域がん診療連携拠点病院の長は，当該拠点病院においてがん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師の専門性及び活動実績等を定期的に評価し，(略)論文の発表実績，研修会・日常診療等を通じた指導実績，研修会・学会等への参加実績等を参考とすること」と記載があり，業績集として機関リポジトリを利用できる。

また，医師は転勤が多く，自身の業績を把握し

ておくことが難しいが，所属のリポジトリに登録しておけば，JAIRO (学術機関リポジトリポータル)⁶⁾にて横断検索が可能となり，世界の何処にいても自身の業績が確認できる。

4. 研修医や医師に選ばれる病院となるための病院の研修・教育の面での広報ツールとなる⁴⁾。

国内においては，文部科学省の学位規則改正により2013年4月1日以降の博士論文は，情報リポジトリによる全文の公表義務が生じたこともあり，機関リポジトリは，2005年に10機関であったが，2014年9月現在539機関と増加した⁷⁾。その内，NIIのJAIRO Cloudの利用は288機関で，病院での機関リポジトリの構築は「赤十字リポジトリ」が最初の試みであり，2015年現在唯一のリポジトリである。公開から2015年8月までの利用状況を図2にまとめた。カウンターは月平均19,905回，閲覧数は4,049回，ダウンロード数は11,017回の利用があり，多くの利用がみられる。

Ⅲ. 産婦人科での「赤十字リポジトリ」活用の背景と目的

1. 医師からの要望

2015年3月に，図書室内に貼られていたリポジトリポスター (図3) と配備された「ホームページマニュアル」を目にした産婦人科の医師からリ

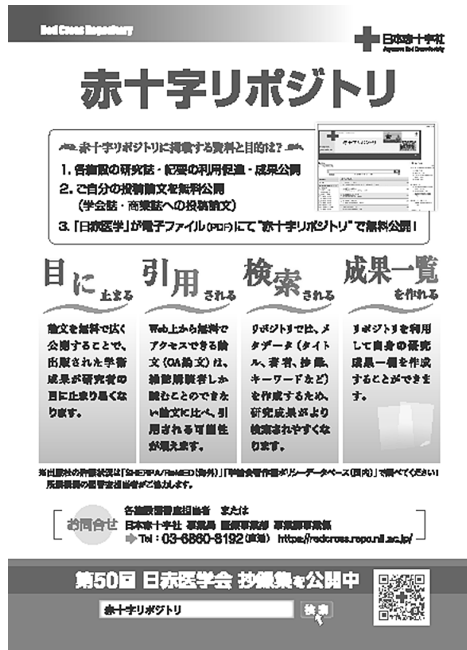


図3 「赤十字リポジトリ」ポスター

ポジトリについて質問を受けた。

医師が興味を持った理由は以下の点である。

- 1) 若手の医師は転勤が多く、自身の発表も把握しにくいので、一か所にまとめて保管できる。
- 2) 外部の医師からの問い合わせに対し、リポジトリを紹介し入手してもらう事が可能。
- 3) 大学の医局や、当院研究報の業績提出の際にリポジトリから情報を集め、提出できる。

2. 医療秘書との打ち合わせ

産婦人科医師から産婦人科担当の医療秘書に依頼があり、医療秘書と数回の打ち合わせを行った。スケジュールと打ち合わせ内容を表に示す(表1)。

表1 打ち合わせスケジュール

日程	内容
2015.4.17	第1回 打ち合わせ 1. 医療秘書にリポジトリの概略説明 2. 医療秘書から医師の要望を聞き、掲載要望の内容(学会発表、論文、講演)を確認する 3. 掲載希望のデータのメールでの送付依頼 4. 医療秘書へインデックスツリーの希望(表示順序等)を医師へ確認してもらうように依頼
2015.6.1	第2回 打ち合わせ 1. インデックスツリーレイアウトについて 古い年代が下、最新は上に表示を希望
2015.6.10	登録
2015.7	第3回 打ち合わせ 1. 追加希望のデータについて

3. 産婦人科インデックスツリー (図4)

「赤十字リポジトリ」は、赤十字病院の紀要、業績、各機能団体の発行雑誌等が登録されている。現在、静岡赤十字病院のフォルダーには、静岡赤十字病院研究報、広報誌「日赤News」等が登録済みである。今回、新しく産婦人科のフォルダーを作成した。業績の内訳は、「講演」「著書・論題・学会発表」「共同演著者」とし3フォルダーに分け新しい年のファイルを上段にした。学会発表を著書・論文と同じフォルダーにした理由は、学会発表後、抄録がオープンアクセスとなり「会議録」として医中誌Webからのリンクが可能となるケースが増えて来たため、論文と同フォルダーとした。例を図5に示す。学会発表の抄録が「関



図4 産婦人科インデックスツリー



図5 アイテムの詳細



図6 CiNii Articles
http://ci.nii.ac.jp/ja

東連合参加婦人科学会会誌オンラインジャーナル」としてオープンアクセスになっているため、学会のホームページを関連サイトに登録し、リポジトリからも利用できるようになった。また著書登録の際と一緒に登録が可能なCiNii (NII学術情報ナビゲータ) IDは、CiNii Articles (日本の論文を探す)⁸⁾ で検索し (図6)、リポジトリの著者登録の際にもCiNii IDを登録している。CiNii IDはコンピュータによる自動処理のため一人の著者に対し、複数のIDが付いてしまう場合があり、可能な限りCiNiiに同一人物の報告を送っている。CiNii IDを統一することにより、CiNii上で著者検索により著者のすべての論文が検索可能となる。また、リポジトリにCiNii IDやNII論文ID (NAID) を登録することによりCiNii上にリポジトリのアイコンが表示され、双方向の利用が可能となる⁹⁾。

4. 利用統計の取得

2015年7月のアップデートによりアイテムごとに月の利用統計の表示が可能となり (図7)、自分の登録アイテム (PDF) の利用状況が解り、登録の励みになる。

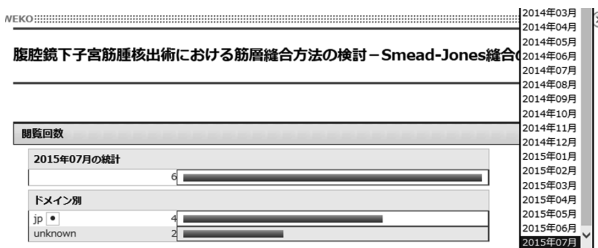


図7 アイテムの利用統計画面

IV. 問題点

1. 現在は、医療秘書を介してデータを入手しているが、医師により提出にばらつきがある。
2. 医師個人が論文投稿の際に、学会、出版社へのリポジトリ公開の許諾を取る事が確実か。
3. 産婦人科だけでなく、他科でも「赤十字リポジトリ」を利用して業績集を掲載する事になった場合、医療秘書の協力を得ることが可能か。
4. 学会発表の詳細のみを先に登録し、後に抄録がオープンアクセスとなる事があり、定期的にチェックして学会のページにリンクを張る事が必要である。

V. まとめ

毎年8月には総務課より、医師の論文発表数、学会発表数の問い合わせがあり、図書室では十分な把握ができない事を伝えているが、「赤十字リポジトリ」上に蓄積ができれば、調査資料への活用も可能である。今回、医療秘書との連携により産婦人科の業績集としての利用が実現した。学会発表、論文の情報は、大学や各調査に利用するため医療秘書が把握する必要があるが、医師個人が発表の際に直接、図書室に情報を伝える事で登録もスムーズにできると感じている。そして医療秘書が「赤十字リポジトリ」に登録された情報を入手し、利用することもできる。その点は今後の改善点であると考える。医師に限らず、医療従事者は、日々の業務や臨床において、自身の現状を把握し、研究や治療成績を統計としてまとめ、未来に向けた経験の蓄積や新たな発見、工夫を広く報告、公開していくことが望まれる。それは、リポジトリの目的と同様、個々の経験や実績を共有し、一般化することが医学の発展に欠かすことのできない過程であると考える。論文だけでなく、活動や業績全体をまとめリポジトリにて公開することは、大学や研究所等の教育研究機関だけでなく、その組織の社会的な役割を広げ、その評価を高めることに繋がる可能性がある。今回の産婦人科の事例により他科で興味を持ってもらえることを期待する。

文 献

- 1) 天野いづみ. 赤十字リポジトリ導入の目的と運営状況. 医学図書館 2015 ; 62 (1) : 44-50.
- 2) 和田 崇. 機関リポジトリと病院図書館のかかわり－機関リポジトリの基礎から. 病院図書館 2011 ; 31 (1) : 3-7.
- 3) 天野いづみ. 「赤十字リポジトリ」ができること－もっとクロス！赤十字での活用を目指す－. 日赤図書館雑誌 2012 ; 19 (1) : 25-32.
- 4) 前田信治. リポジトリで何をしたいのか. 日赤図書館雑誌 2011 ; 18 (1) : 3-15.
- 5) 厚生労働省. 「がん診療連携拠点病院等の整備について」(厚生労働省健康局長通知)(平成26年1月10日) [internet]. http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/dl/gan_byoin_03.pdf [accessed 2015-8-17]
- 6) JAIRO (Japanese Institutional Repositories Online)[internet]. <http://jairo.nii.ac.jp/>[accessed 2015-8-17]
- 7) 尾城孝一. JAIRO Cloudの今後の運営モデルと有料化の提案[internet]. http://www.nii.ac.jp/irp/event/2014/OA_summit/docs/3_02.pdf [accessed 2015-08-18]
- 8) CiNii Articles[internet]. <http://ci.nii.ac.jp/> [accessed 2015-08-18]
- 9) CiNii Articles -マニュアル- 論文詳細表示画面の使い方. [internet]. https://support.nii.ac.jp/ja/cia/manual_bib[accessed 2015-08-18]

The Obstetrics and Gynecology Achievements Collection that utilized "Red Cross Repository"

Izumi Amano, Saori Yamanashi¹⁾, Yoshikazu Ichikawa²⁾

Medical Library, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital

1) Department of Medical Affairs, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital

2) Department of Gynecology and Obstetrics, Japanese Red Cross Shizuoka Hospital

Abstract : In June 2012, we accumulated articles, conference presentations, and lecture records by obstetricians and gynecologists using the Japanese Red Cross Society's "Japanese Red Cross Repository." In addition to aggregating the contributions of different individuals, this repository can serve as a public relations tool for hospitals by making their achievements available to the world through the internet. However, since the articles are viewable not only by medical professionals but also by the general public, full consideration needs to be given to copyright and patient privacy.

Key words : Institutional Repository, Medical Information Service, Open Access, Online Journal, JAIRO Cloud, Personal Information Protection